

DEBUT 首長

千葉県習志野市長 宮本 泰介氏



みやもと・たいすけ 1973年生まれ。99年八千代国際大学（現秀明大学）政治経済学部卒。同年4月に26歳で習志野市議に初当選し3期勤める。市議会副議長などを経て、震災後の11年4月に習志野市長に当選。

選挙直前に市域の25%液状化 公共施設はPPPの利用検討

習志野市 ラムサール条約登録の谷津干潟を持つ県北西部の市。約21km²と県内2番目の狭さに人口16万人。東京湾岸に新興住宅や物流拠点が多い。

——**就任直前に東日本大震災が発生し、大規模な液状化現象が発生した。**

地震が発生したのは立候補の挨拶に回っている時だった。市長就任後は震災復興が最優先の仕事になった。習志野市内は国道14号線より海側の埋め立て地を中心に土砂が噴出し、道路の陥没や下水道管の破損、住宅の損壊など大きな被害が出た。

液状化した地域は市全体の25%にも達した。7月には住宅地の復興のための検討会議を設け、11年末には最終報告書をまとめてもらった。下水道だけでも70億円近い金額が必要になる。住宅の再建もこれからだ。まだ応急復旧を終えた段階で、本格的な復旧にはさらに2、3年かかるだろう。

——**市の組織も見直した。**

災害をはじめとする危機管理体制を強化するため、従来の安

全対策課を危機管理課に衣替えた。また、情報発信とともに市民の声を広く聞くため秘書広報室を新設した。「共感」「信頼」「希望」が市政のキーワードだ。当面は震災からの復旧・復興に最優先で取り組むが、複雑で多様化する課題にスピーディーに対応できる市役所を目指したい。

——**老朽化した公共施設の更新が課題になっている。**

1970年代から80年代半ばにかけて人口が急増し、このころ整備された公共施設が多い。地震で被害の出た市役所本庁舎もそうだが、建築基準法の新耐震基準が導入された81年より前の建物が6割を超え、築10年以内は1割に満たない。これから次々と建て替え・改修期を迎え、老朽化と防災への対応が緊急の課題になる。市の試算では毎年40億円の費用が必要になるのに対し、確保可能な財源はその半分しかない。

——**4月1日に新設した資産管理室の狙いは。**

従来は小中学校は教育委員会、市営住宅は都市整備部など原則として施設を管理する部署が改

修や建て替えを担当していたが、これを新設部署に一本化し、技術系職員も集約した。

公共施設の建て替えや統廃合のスケジュールを盛り込んだ再生計画を今年度中にまとめる。長期的な視点で施設管理するファシリティマネジメントの考え方を導入し、民間資金活用などを含め財政負担の大幅な削減を目指したい。

——**いち早く市役所の建て替えを打ち出した。**

築後50年近くたつ市役所は3月の震災では窓ガラスが割れ、床がたわむなど大きな被害が出た。倒壊・崩壊の可能性があるため、京成津田沼駅前にある閉鎖中の民間ホテルに市役所機能を移す事にした。将来の災害に備え、想定外を想定することが市の役割であると考えている。PPP（官民パートナーシップ）などの手法を使った建て替えを検討する。

（聞き手は

千葉支局長 田辺 省二）